



# introduction

## 序

京都医療センターのアンニュアルレポート令和4年度版を作成しました。令和4年度も新型コロナウイルスが猛威を振るい、7月には国内感染者の累計が1000万人を突破しましたが、ワクチン接種が進んだこともあり、重症化リスクや致死率は大きく低下しました。同月、奈良市内で参院選の街頭演説中に安倍晋三元首相が銃撃される事件が発生。スポーツ界では大谷翔平がアメリカ大リーグで投手として15勝、打者としてもトップクラスの成績を収め、12月に行われたサッカーW杯カタール大会では日本代表が強豪のドイツ、スペインを撃破してベスト16入りしました。令和5年3月にはワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本が全勝して3大会ぶり3回目の優勝を果たし、将棋界では藤井聡太五冠が棋王戦を制し、29年ぶりに最年少記録（20歳8か月）を塗り替える六冠獲得を成し遂げました。一方、令和4年に生まれた国内の子ども数は1899年以降初めて80万人を下回りました。海外では、令和4年2月に始まったロシアのウクライナ軍事侵攻が継続し、世界の分断が供給制約を深め、食品やエネルギー等の高騰に拍車がかかりました。9月には70年以上にわたり君主を務めたエリザベス女王が96歳で逝去されるなど世界情勢にも変化がありました。

当院では昨年に引き続き、軽症から重症の新型コロナウイルス感染症患者さんの診療を継続するとともに、社会からの要請に応じて京都府入院待機ステーション等へ医療従事者の派遣等を行いました。その他の取り組みとして、4月に特別室個室病棟のリニューアルオープン、5月に内視鏡検査室の拡張整備（検査室の増加、リカバリー室の新設）、6月には1-8病棟のトイレ洋式化等工事と臨床研究センター屋上の防水修繕を実施、7月にバーチカル搬送設備・エアシューターの廃止、9月に一般病棟看護師の業務負担軽減を目的として準夜帯に派遣看護補助者を配置、10月にウロギネ外来の新設と血液内科外来スペースの拡張整備、そして令和5年3月にはリハビリテーション科とスポーツ医学センターの統合を行いました。令和4年度の経営は、医業収支は1億円の赤字、経常収支は28億円の黒字でした。

当院はこれからも、この街の医療をささえる病院として、地域の皆さまに愛されるよう頑張っまいります。今後ともご協力いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

院長 小池 薫